今後の非血縁者間末梢血幹細胞移植（UR-PBSCT）の扱いについて

（経緯等）

2002 年 12 月：第 14 回 造血幹細胞移植委員会

・ 「骨髄バンク事業への末梢血幹細胞移植の導入」に関して審議されたが、血縁者間での長期データがまだないことなどから、導入については了承されず、引き続き検討することとされた。

※ その後も議論を重ね、さらに日本造血細胞移植学会にて血縁者間末梢血幹細胞採取・移植について長期的安全性などについてデータの蓄積を行った。

2010 年 8 月 5 日：第 31 回造血幹細胞移植委員会

・ 「骨髄バンク事業への末梢血幹細胞移植の導入について」を議論。非血縁者間での末梢血幹細胞移植について、安全性を確認しながら順次段階的に導入していくことについて了承。

2010 年 10 月：非血縁者間末梢血幹細胞移植のあっせん体制の設置
2011 年 ３月：1 例目の実施
2015 年 ３月：100 例目の実施

（今回審議をお願いしたい内容）

① 2015 年 9 月末までで 128 例の非血縁者間末梢血幹細胞移植が行われている。第 31 回の審議会で安全性を確認しながら順次段階的に導入することとされており、（公財）日本骨髄バンクでは、末梢血幹細胞ドナー選定条件および採取施設に求める条件として、従来の骨髄ドナーの選定条件に、下記の条件を加えた形で運用を開始した。

１） HLA 遺伝子レベル 8/8 一致ドナーであること。
２） 末梢血幹細胞採取施設に 1 時間以内で通院可能であること。
３） 末梢血幹細胞採取中は医師の常時監視を要すること。

② 今般、（公財）日本骨髄バンクより、厚生労働科学研究およびドナー安全委員会等における移植成績の解析およびドナーの安全性の検討を行った結果の報告があった。その内容を踏まえ、非血縁者間末梢血幹細胞移植におけるドナーの選定条件および採取施設における条件の緩和について妥当かどうかの審議をお願いしたい。